

走り来る數名の小僧はまたも同乗を求める。山峽に遠く見ゆる石切小屋から来た小供連れの中年の婦人も亦同乗を乞ふ。御者は一々余に許可を求める。最初買切りの筈であつた車に同乗者が増えたからである。最初の婦人等は詩の叙景の眞偽を論じてゐる。小僧等は馬脚の速しと見れば或はとび降りたり跳び乗つたりする。ひとりゆられ行く心細さはなくなつた御者も亦不意のポケットモネの増加でほく／＼顔である。山峽の嶺を見、遠くに大小の湖面を眺める頃から道は降り坂である。右遠くに白く水面の見えるのはツナカ湖 (Tschuachach) であり、左に連つて小さく見ゆるはアクレイ湖 (Loch Achray) であり、左に山嶺高く岩角を見るはベン・ベマの山 (Ben Venue) である。アクレイ湖畔に一郭の城と覺しき建物が見え、如く嚴然と控えてゐる。これこそスコットが口を極めて賞め讃へてゐるツロサツクス・ホテルである。またもうれり／＼降り湖畔に近づけば一艘のボートを漕ぐ美人がある。湖上の美人のエレン (Ellen) はカトリン湖 (Loch Kaituma) の小島から一舟をもつて緑衣の騎士を迎へたのである。谷に降り樹下に車を馳せて後漸にしくカトリン湖の舟乗り場を眺め得る丈けであつて未だ湖面にすら接しない。ツロサツクス、ホテルに到着したのは正午過ぎであり昼食をとり二泊の約束にて室を定める先刻樹間から隠見した艇上の美人はエレンの美貌の持主であらうかとホテルの庭に暫憩ひてボートの湖岸に近くを待つ。夜目遠目の幻滅を將に味はんとした時吾ながら不良老年の悲哀を感じた。室は湖に面し窓から眺める月明の山景は晝間の失望を償ひ得て餘りがある。或はホテル

の休憩室或は庭上に宵の程は諸國から集る旅客の異なる訛りに興を抱いて耳を傾く。米人大多數を占めヤンキ訛りに鼻聲が耳につく。印度人あり支那人あり邦人あり同じく英語をあまりながら母語の特徴を丸出しにしてゐる。蘇人英人と雖も夫々の方言に出身を暴露し聴覺の面白き一夜を過す。

新著紹介

○地理教材研究第十三輯

日黒書店發行 定價一圓

二十錢。

西田君の洋行中に、帷子君が代つて骨を折られた第十三輯である。佐々木清治氏の宿場町の研究といふ近來の力作が出てゐる。宿驛の歴史から近古の宿場といふものを説明し、その形態の特殊相や基本型さては市場との關係及其没落過程が論じてある、いかにも立派なものだ。神田逸二氏の世界の地理區。柴田氏の秋田縣地理區。富田氏の斷層崖と同線崖帷子氏譯地體構造の新説。田卷氏の伊獨丁諾の衆落いづれもと／＼に面白い。旅行記として西龜氏の北海樺太、三村氏の滿洲、杉目氏の新高山、さうした九篇合せて一五六頁菊版のさうりとした小冊子になつてゐる。(藤田)

○都市地理研究

人文地理學會編輯 刀江書院發行

定價一圓五十錢

小田内通敏君 昭和二年五月に人文地理第二卷を出した後

拮据經營の功坐しからずして、こゝにこの研究菊版二七〇頁の冊子が出たことを慶賀したい。本書收むる所小田君の風景形態としての都市及都市的人口集團の地域的實在二篇がある佐々木清治君の濱松市の都市地理學的考察はこの輯に於ても光つてゐるのがうれしい。奥井氏の獨逸都市計畫の史的考察も面白いし、種畑雪湖氏の徳川時代の宿驛佐古慶三君の近世大阪、川口氏の米の聚散と都市、大類伸氏の巴里の古圖などいづれも面白い。この外に五六の譯文がある。故に本書は名は都市地理研究であるが、日本の都市に就ては寄與する所が少い。中村新太郎教授が本書中に漫筆をのせて『都市地理學といふ學問があつて、フランスではどうの、アメリカではかういふ風に研究してゐるなど、この頃の我國の地理學の雜誌に散見する所であるが、然し私共の寡聞なる日本の都市を研究の對象にした一つの地理學的研究を見ることの出来ないのはどういふわけであるか、笛を吹くものはあつても、一人として師つて見せるものがない』予はかうした意見に同感の念を禁じ得ない。本書を手にして愈その感がふかめられたといつてよいのを残念に思ふ。但しこれは本書を批評したのでなくて全く自警の叫聲であるのである。(藤田)

新著即報

◎日本地形誌 辻村太郎著古今書院發行 二月 四圓二〇錢
◎朝鮮鑛業會々報 第七四號 二月

新著即報

朝鮮無煙炭の用途 (松田長太郎)

◎*American Journal of Science*. Vol. XXVII. No. 97. Jan. 1928.
[Strat] we return to Cataclysmal Geology?

(Edward W. Berry)

Radium in Rocks. I. (Charles Snowdon Pigot)

Quaternary marine Terraces in non-glaciated

Regions and Changes of Level of Sea and Land.

(Ernst Antevy)

Recent geological Research in the Arctic. (H. K. E. Krueger)

◎*The Mining Magazine*. Vol. XXXIX. No. 6. Dec. 1928

The Japanese Empire as a mineral producer.

(J. Norman Wynne)

◎*Palaeontologische Zeitschrift*. Bd. 13. Heft 3/4.

Dec. 1928.

Das geologische Alter des *Homo heidelbergensis*.

(W. Soergel)

◎*Annales de Géographie*. XXXVII. Ann. No. 210.

Nov. 1928.

La production et la Consommation de la Soie

artificielle dans la monde (L. Guéneau)

Sur l'évolution de cours d'eau à m'andres

encaissés. (R. Musset)

◎*Geographical Review*. Vol. XIX. No. 1. Jan.

新著 長中